

ムーミン一家の機能不全とその解決  
『ムーミンパパ海へいく』を通して

スウェーデン語専攻 渡部和泉

目次

1. はじめに
    - 1.1. 研究意義
    - 1.2. 論文要旨
  2. 作家紹介
    - 2.1. 作者トーベ・ヤンソンの生涯
    - 2.2. トーベ・ヤンソンの家族観
  3. 作品分析
    - 3.1. あらすじ
    - 3.2. 『ムーミンパパ海へいく』における登場人物の分析
    - 3.3. 作品に表れるモチーフの分析
    - 3.4. 他作品（『小さなトロールと大きな洪水』や『ムーミン谷の彗星』など）における家族像
  4. まとめ
- 使用テキスト  
参考文献

## 要約

本論文はスウェーデン系フィンランド人作家トーベ・ヤンソンが著した、ムーミンシリーズ第8作目の小説である『ムーミンパパ海へいく』（原題 *Pappan och havet*）におけるムーミン一家の機能不全とその解決について、作者の家族観や作品における表現やメタファーの観点から分析を行ったものである。

第1章においては、本稿の論旨および研究意義について述べた。

第2章においては、作者トーベ・ヤンソンの生涯と彼女が持っていたと考えられる家族観について論述した。

第3章においては、『ムーミンパパ海へいく』のあらすじを要約した上で、登場人物の描写や繰り返し現れるメタファー、そして身体的リズムや時間の共有など、言語を介在しないコミュニケーションについても分析し、ムーミンシリーズ初期の作品と比較して、『ムーミンパパ海へいく』が家族の機能不全と、登場人物の心境の変化が主題となった作品であることを明らかにした。

最終章4章では、個人の外側に家族というコミュニティがあり、その外側に他者が存在しているという構造を再確認したのち、以上の考察と分析から、『ムーミンパパ海へいく』においてムーミン一家は、個人と家族あるいは個人と他者とを結ぶ対話によって、互いへの理解を深め、外界の存在と心を通わせることができたことで、家族それぞれのアイデンティティが変化し、不和の解決につながったことを結論として導き出した。